

企画・編集にあたって

14年前の本誌増刊号「特集/外来泌尿器科マニュアル」の巻頭言において、町田豊平先生は、「病院に入院して行われる診療や治療は、先端技術での医療行為が目立つためにそれが泌尿器科の檯舞台のようにみえる。しかし、実際は外来診療で費やされる仕事が最も多く、華々しくないが個々の技量が最も問われるのは外来診療である」と外来診療の本質を述べられています。近年、泌尿器科診断学の進歩は著しく、また、外来治療とプライマリ・ケアが拡大している今日においても、その基本姿勢は変わらないものと思います。しかも、一般内科や外科の場合と違って、泌尿器科受診の患者さんは、ある程度、泌尿器科疾患を疑って来院するわけで、局所的な泌尿器科所見のみならず、全身的な異常や疾患の背景にも配慮が不可欠です。また、泌尿器科診療の多様性により、各領域に及ぶ広範な経験・知識が要求されることも少なくありません。

今回、本増刊号では、多くの泌尿器科医が外来診療において日常遭遇している疑問・問題点に関して、各々の領域において幅広い経験を持つ精通者に直接相談するような形式の実用的な特集を企画しました。すなわち、まず準備段階として、本誌「病院めぐり」に登場された執筆者の各先生方を対象に、日常外来診療において実際に困惑している多様な問題についてアンケート調査を施行し、多くの質問事項を抽出しました。これら質問事項を、(1) 尿路・性器の炎症性疾患、(2) 神経因性膀胱障害と尿失禁、(3) 前立腺肥大症、(4) 尿路結石、(5) 腫瘍（外来化学療法）、(6) 内分泌疾患、(7) 腎不全、(8) そのほか、と疾患別に分類しました。さらに、それら各々の実際の質問

事項に対する回答を、現在、第一線の医療機関において活躍されている新進気鋭の先生方に、「1. 診療の概要」「2. 診療方針」「3. 対処の実際」「4. 処方の実際」「5. ここがポイント」の各項目について、実際の日常診療で役立つように執筆していただき、本増刊号「ここが聞きたい—泌尿器科外来における対処と処方」が誕生しました。

また今回の執筆者は、全国各地の大学病院と市中病院の先生方に、地域的にもできうる限り均等になるように依頼しました。なぜなら、研究や実験方法と異なり、外来診療も手術や入院診療と同様に、伝統という名のもとに各大学・各医療機関の間で少なからず異なり、また、種々様々な工夫がなされているものと考えられるためです。本増刊号は、各大学病院および各医療施設が行っている診療内容や考え方を交流する良い機会になればとも思います。

本増刊号は、企画された狙いどおり実践的内容であると自負しています。本増刊号を多くの先生方のお手許に、また泌尿器科外来の本箱に常備していただき、看護師を含めて日常診療に大いに活用され、ボロボロになるまで可愛がっていただけることと確信しています。

なお、本増刊号の企画にあたっては、伊藤裕一（中部労災病院）、上原徹（立川総合病院）、押正也（東京都立府中病院）、黒田昌男（日生病院）、塚晴俊（市立長浜病院）、沼田功（古川市立病院）、檜垣昌夫（災害医療センター）、布施春樹（舞鶴共済病院）、村雲雅志（釧路労災病院）の各先生にご協力いただきました。記してお礼申し上げます。

（藤岡知昭）